

昨年、11月16日、カンボジアで同国初の脳神経外科ライブ手術を実施した。脳腫瘍のなかでも最も高度な手技を要する、錐体斜台部髄膜腫の摘出術を行い、成功裏に終了した。術後、見学してい



カンボジアでの手術光景

## 使命は、絶対に諦めない医療

いって書きたいと思ったのが、55歳5か月であった。

僕の座右の銘は、「絶対に諦めない」である。我々が諦めたら誰が患者さんと向き合うのか？ 我々は絶対諦めてはいけない心（使命）を天から授かっているのである。僕は「絶対に諦めない!!」、そして現在の脳神経外科医療の最前線を一步でも二歩でも進めて、多くの患者さんが喜ぶ顔を見たい。それが僕の夢でもあり、使命だ。「安全で良質な医療の提供」とは、近頃急増する医療機関への不信を払拭すべく、日々努力することである。ひいてはこの医療が地域社会医療への貢献にもつながると確信している。

# 55歳は自然体で、マツハで行く！

## 北原功雄 (高32回)

### 今、風もふるえるヘアピンカーブへ

44歳は、僕にとって人生の節目、転換期だった。脳神経外科医として神の手で名高い福島孝徳先生の、日本の手術拠点である福島孝徳記念病院の院長に就任した歳であった。その44歳の誕生日から毎年、僕は、その年の目標を掲げてきた。44歳は「99%努力。1%に個人の運、よき師との出会い、天分である」、45歳は「親切、誠実、丁寧」、46歳は「あらゆる努力をして101%の結果を出す」、47歳は「絶対あきらめない」、48歳は「夢にときめけ、明日に輝けby北原功雄」、49歳は「人生50年」、50歳は「独り立ち」(ウルトラマンは存在しない。最強のウルトラ警備隊になれ)、51歳は「寝ているときは死んでいるとき」、52歳は「史上最大の作戦。手術は、戦略である」、53歳は「脳神経外科手術の最前線を一步でも進める」、54歳は「風



●きたはら・いさお  
飯田市通り町出身。昭和大学医学部卒。福島孝徳記念病院を経て、現在千葉徳洲会病院院長代行。趣味は蝶の写真撮影。ヒメギフチョウ、ギフチョウ共存地域でのナイスショットが、最近うれしかったこと。

林火山)。

そして55歳を迎えたとき、一瞬で浮かんだ目標が、「マツハGo Go」であった。55歳はマツハで過ぎていく。時間を有効に使おう。全ての医療行為を、自然体でマツハで行うのだ。

僕はこの「マツハGo Go」のテレビアニメが大好き(今も大好き)で、いつもワクワクしながら見ていた。我々は、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の時代、まさに高度成長期に育った。当時マツハ号は、我々世代すべての夢のスーパーカーであった。僕も、マツハ号に乗って正義のヒーローになるぞと思っていた。

(エンジン音) ♪かぜもふるえるヘアピンカーブ

こわいものとゴーゴー~~~~

この主題歌を、鼻歌まじりに歌うと、今でも活力が湧いてくる。「55歳のつぶやき」に、わたしの夢と使命につ

た19人の医師から熱い感動をいただいた。12月3日には、ベトナム・ハノイで、巨大聴神経腫瘍に対して、脳神経外科ライブ手術を実施し、これも成功裏に終了。今後、毎年ライブ手術を施行し、医療技術を輸出することが決まった。この活動は、世界脳神経外科連盟(WFNS)が実施している発展途上国への技術援助の一環として行ったものだ。発展途上国の援助として、体幹部固定具や術中神経モニタリングシステム、マイクロボさみなど手術に必要な器具のほほすべてを北原チーム(後期研修医、看護師、放射線技師)が手分けして持ち込み、手術した。手術は、同国の医師らの参考となるよう、できる限りシンプルな手技に努めた。見学した医師からは、そのシンプルさが「わかりやすかった」と大好評であった。両国は設備面は厳しい状況にあるものの、医師は皆、優秀で意欲に満ちており、おそらく技術協力さえあれば、10年後には同国で難度の高い手術を行うことは十分に可能と思う。

この原稿を書いている翌日(5月29日)は、カザフスタンに巨大動脈瘤のライブ手術に行く。日本だけでなく、今後ますます、世界の脳神経外科医の医療技術教育が必要と思う。10年、20年先に、人が育ち世界の開発途上国の医療も進み、世界中が笑顔の人であふれてくれることを願っている。